

山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告

令和2年度 展示テーマ

『のぞむ』



# 山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告

## 令和2年度 展示テーマ『のぞむ』

### 事業の経緯と経過

令和2年度は、参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特色を活かした学術資料または研究成果の展示を開催するという従来の体制での事業となった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症による、いわゆる「コロナ禍」の中、開催を辞退せざるを得ないと判断された館があり、8大学9館（下記「事業の実施体制」参照）での開催となった。

- 今年度の事業説明会はメール通知の形をとり、事業内容については、
- ◎展示の共通テーマを『のぞむ』とする
- ◎事業期間は10月から翌年1月までとし、各館2ヶ月以上展示を開催する
- ◎関連事業として例年開催していたスタンプラリーについては、実施しない
- ◎参加大学から参加費を徴収し、事業運営に充てる
- などが決定された。

以降、各館の展示準備とともにポスター、チラシ、スタンプラリーカードなどを作成し、広報物の配付による事業の周知などを行った。

令和2年10月、予定通り『山口県大学ML連携特別展』は開幕した。ただし、会期中にも新型コロナウイルス感染拡大等の社会情勢に応じ、展示観覧者を学内者のみに制限する等の対応を行った館もあり、会期中に計数された見学者数は約250名（図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難）ほどと、例年より大きく落ち込むこととなった。

次頁より、参加各館の展示内容の紹介と実施成果の報告を行う。



展示広報用ポスター

### 事業の実施体制

#### ・主催

山口県大学ML連携事業実行委員会事務局

- 代表 田中俊二 (山口大学学術基盤部 部長)
- 事務担当 田村広明 (山口大学学術基盤部学術基盤推進課 副課長)
- 黒瀬仁昭 (山口大学学術基盤部学術基盤推進課企画連携係)
- 川上誠 ( // )

#### ・参加館

岩国短期大学附属図書館 宇部フロンティア大学附属図書館  
 下関短期大学附属図書館 東亜大学附属図書館 徳山大学図書館  
 梅光学院大学図書館 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館  
 山口大学総合図書館 山口大学埋蔵文化財資料館  
 (50音順)

#### ・共催

大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会

#### ・後援

山口県図書館協会 山口県博物館協会 大学博物館等協議会



山口県大学ML連携事業Web



## 岩国短期大学 附属図書館 『幼児と新しい日常にのぞむ』

住 所：〒740-0032 山口県岩国市尾津町2丁目24-18  
電 話：0827-31-8141 (代)  
e-mail：library@iwakuni.ac.jp  
http://www.iwakuni.ac.jp/  
●開催期間：10月19日(月)～12月25日(金)  
※図書館の一般開放は行っておりません。

### 【展示内容】

古い日常を取り戻すことができない私たちは、あらたな社会生活を迎えるにあたって、保育者として幼児と共に手をつなぎ「新しい日常」にのぞむことになるでしょう。その「新しい日常」とは、絵本や童話の物語からイメージしてきたように、きっとわくわく弾んでくるその心から生まれてくるに違いありません。

本学の展示では、保育者になる私たちのがのぞむ「新しい日常」のイメージと物語の主人公や世界観がリンクするような絵本や童話を取り上げました。

### 【観覧者数】

約40名

### 【成果】

コロナ禍において入場者というものを期待できない中で、どのような成果があったかといえば、この展示を通じて我々は知的な資産を創造的に編集していくという意味を山口県にアピールしたことです。本学においては、テーマに関連した書物を検索したところ不足していたことがわかったり、授業では紹介できなかった書物をこの展示を通じて再構成して学生に再認識してもらうことができました。教員も幼児教育単科であるので、この展示を通じて情報や知識、見識を共有することができたのが成果といえます。今後ともに、限られた書籍数の中でテーマに沿って新たな書籍を構成する作業を通じて、当大学の知的な存在を自覚できたらと考えています。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

次年度は、コロナ禍が収束するかどうかわからない中で、いかに展示を多くの外部の人々に見てもらえるかという点に焦点を絞ってみたいと思います。テーマもこのような意図的なバイオハザードのなかで真真正正に知的文化を守り、対抗していくかというようなテーマで臨まれたらいいかかと思っています。



展示の様様



展示観覧風景



## 宇部フロンティア大学附属図書館 『私たちがのぞむ未来へ』

住 所：〒755-0805 宇部市文京台2-1-1  
電 話：0836-38-0524  
e-mail：tosho@frontier-u.jp  
http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-institution/a-library/  
●開催期間：10月1日(木)～12月25日(金)

### 【展示内容】

本学は、福祉・心理・看護・食物栄養・保育のエキスパートを育成しています。今回の展示では、これらに関する免許・資格を取得し、社会で活躍している人々の書籍を中心に展示紹介しました。また、在学生がのぞむ未来に向けての思いもご紹介しました。業界のことや技能の知見を得ることはもちろん、自身の生き方について考える機会となる資料から、これらの職業の発展性や可能性を感じていただけたものと思います。

### 【関連事業】

「あなたののぞむ未来はなんですか?」というテーマで、学生の意見を適宜募集した。

### 【成果】

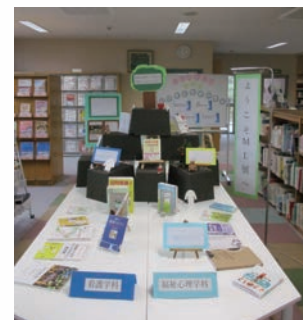
一般の方が利用できず、閲覧者は学内者に限定されましたが、展示物の作成は、学生協働のメンバーに協力してもらい、学生のコメントを展示することが出来ました。本の展示を学科別にしたことで、利用者にわかりやすく案内が出来ました。学生の日々の学習のモチベーション維持や将来の可能性を考える機会とすることが出来ました。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示場所や装飾等の工夫、テーマに添った展示アイデアや展示物品の確保、広報活動の強化などが課題として挙げられます。



展示の様様



展示の様様



## 下関短期大学 図書館

『30年間の「創作発表会」発表内容を振り返り、今後の発展に臨む』

住所：〒750-8508 山口県下関市桜山町 1-1

電話：083-223-5340

e-mail：lib@shimonoseki-jc.ac.jp

http://www.shimotan.jp/publics/index/51/

●開催期間：11月4日（水）～1月29日（金）

### 【展示内容】

本学保育学科の「創作発表会」は1989年（平成元年）より保育者としての即戦力としての専門知識を幅広く学ぶため、「手遊び」「影絵」「合奏」「劇遊び」など実技発表を中心に学修成果発表の場として発表会を開催してきました。

この会も30回を超え、学び直しを考える時が来ています。到達目標である「発表技術・技能の力を高め、コミュニケーション力や協調を養い、感性豊かな表現力を身に付けるとともに、地域社会の幼児育成に貢献できるようにすること」を新しい観点から過去を振り返るとともに、今後の発表表現のあり方を考える展示を試みます。

不明

### 【成果】

外部からの訪問は関係者のみでしたが、展示することで、学生に日頃見ることができない資料を身近に感じてもらうことができました。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

今回は、コロナ禍で学校全体が落ち着かない状態だった為に、展示準備がいつも以上に遅くなりました。

次回は、開催出来るのか不安です。



展示の様様



展示の様様



## 東亜大学 附属図書館

『作家赤江瀑の原点  
～詩人長谷川敬を追う～』

住所：〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町 2-1

電話：083-257-5111

e-mail：tosyo@toua-u.ac.jp

https://www.toua-u.ac.jp/

●開催期間：11月9日（月）～12月18日（金）

### 【展示内容】

本展示は、郷土下関が輩出した泉鏡花賞作家、赤江瀑（2012年下関没）<sup>あかえぼく</sup>を顕彰するものです。赤江瀑は小説家・劇作家の枠組みから外れた、類まれな「芸術家」といえます。今回は1昨年のML展で果たせずに終わった、本名長谷川敬（はせがわたかし）の名で作りに上げたデビュー前の作品群に注目しました。

とりわけ早稲田の同人誌「詩世紀」と関門の作家を中心とした文芸誌「埠頭」への寄稿作品にスポットを当て展示に供しました。赤江瀑の原点に触れていただけなものと思います。

### 【観覧者数】

20名

### 【成果】

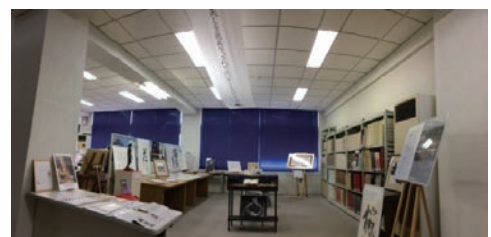
特になし

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

コロナが長く続くようであれば本学の開催が不透明となります。



展示の様様



展示の様様



## 徳山大学 図書館

『明治を／にのぞむ  
～千治松コレクション3～』

住 所：〒745-8566 山口県周南市学園台  
電 話：0834-28-5394  
e-mail：toshokan@tokuyama-u.ac.jp  
http://www.tokuyama-u.ac.jp/about/about/facility/library/  
●開催期間：10月26日（月）～12月28日（月）

### 【展示内容】

本学収蔵の資料「千治松家コレクション」からの展示も3回目になりました。今回は「のぞむ」というテーマに即し、明治期の政治家、軍人の書の一部を公開しました。（寺内正毅、桂太郎、東郷平八郎など）展示された歴史資料とともに明治を望み、明治に臨んでいただけたものと思います。

### 【観覧者数】

40名

### 【成果】

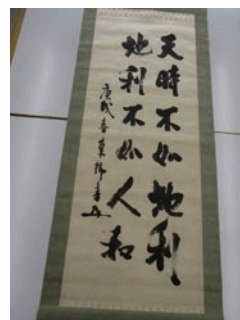
今年度に関しては、コロナ禍の中でも開催期間中は休館することなく、ともかく特別展を無事終了できたことがまずは成果と言えます。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

昨年の60名から、学外来訪者がかなり減りました。来訪者増が課題です。新型コロナウイルスも原因だとは思いますが、来年度はリピーターを含めこれを増やしたいと思います。



展示の様様



主要展示品



## 梅光学院大学 図書館

『詩人キーツと  
ネガティブ・ケイパビリティ』

住 所：〒750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1  
電 話：083-227-1040  
e-mail：library@baiko.ac.jp  
http://www.baiko.ac.jp/university/library/  
●開催期間：11月4日（水）～1月29日（金）

### 【展示内容】

「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉を、作家の帯木蓬生さんに取材した新聞の記事で知りました。

「結論を急がず、悩みに耐える『ネガティブ・ケイパビリティ』のススメ 作家・精神科医、帯木蓬生」という見出しです。詩人キーツが書簡の中でたった一度使ったこの言葉は、今まさに私たちに必要な考え方であると同時に、私たちに「のぞみ」をもたらす言葉であると思わずにはいられませんでした。

この度は梅光所蔵のキーツの美しい洋古書を展示すると共に、シェイクスピア研究を専門とされる本学准教授・渡邊晶子氏による講演を実施しました。

### 【関連事業】

講演「無力化する言葉～リア王のネガティブ・ケイパビリティ～」

参加人数：48人

### 【成果】

「古い洋書の美しさに触れることができた」

「詩人のキーツを初めて知った」

「ネガティブ・ケイパビリティという考え方を知り関心を持った」

アンケート回答や口頭で、少数ではありますが、以上のような感想を学生から聞きました。図書館の奥でひっそり保存されていた古いキーツの本と言葉が、今の若い人たちの心に少し響いたのではないかと思います。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

コロナ禍にあって、学外の方に展示を観ていただくことができず残念でした。

学内の学生・教職員には、少数ですが関心をもってもらいました。

もっと多くの学生・教職員が関心を持ってくれる展示とは何だろう、と考えています。まずは、学内の認知度を上げることが課題です。

次年度は、さらに梅光学院大学をよく知ってもらえるような企画を立てたいと思います。



展示観覧風景



講演会の様様



## 山口学芸大学 山口芸術短期大学 図書館 『学びの先に～高みを目指して“臨む”』

住 所：〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町 1-7-1  
電 話：083-972-3288  
e-mail：akiyama@yamaguchi-jca.ac.jp  
http://www.yamaguchi-jca.ac.jp/library/  
●開催期間：11月16日（月）～12月18日（金）

### 【展示内容】

本学では、芸術を基盤とする教育を通して豊かな教養と感性を身につけ、新しい時代に対応できる人材の育成を行っています。

本展示では、学びを通して形作られた作品を展示しました。日々の学生による“挑”戦を感じていただき、芸術を基盤とした学びの先に見えるものを議論していただけたことと思います。

### 【成果】

今年度は、コロナ下での開催ということで学内限定での公開となりました。

そのため、より身近な展示を考え、卒業アルバムや記念誌を展示したところ、芸短・学芸大学、或いは教職員・学生を問わず、興味を持って観て頂けたように思います。

また、50周年記念行事や芸術表現学科の舞台発表で作成・使用された実際の舞台衣装と、その映像を間近に見れたことで、舞台発表を観ていない学生も興味を持ったようです。

例年と比べて、アンケートに回答する学生が多かったのも印象的でした。

これまでは教職員や一般の方がほとんどでしたが、今年は特に学生が興味を持ってくれたようです。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

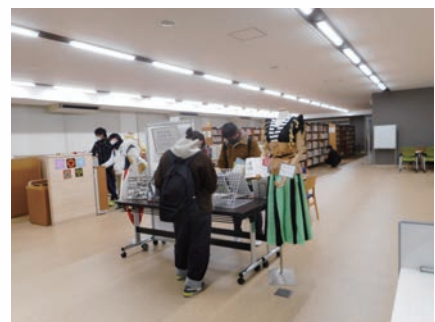
コロナ下での広報について、学内限定とはいえ、来館を呼び掛けても良いのかどうか困惑するところもありました。

来年度についても、外部公開の是非、広報について臨機応変な対応が求められると思われます。

感染対策の強化とコロナ下での展示方法についても考えていきたいと思えます。



展示の様様



展示観覧風景



## 山口大学 総合図書館 『庶民史料とのぞむ豊かな世界』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1  
電 話：083-933-5183  
e-mail：toshokan@yamaguchi-u.ac.jp  
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/  
●開催期間：11月4日（水）～1月31日（日）

### 【展示内容】

山口大学図書館には、小郡の林家文書や嘉川の本間家文書をはじめとし、多数の古文書が所蔵されています。これらは、昭和30年代、県下の歴史的蓄積を尊重することが農学の研究の発展にとって重要であるとの志にもとづき、土井弥太郎教授の提唱と尽力によって蒐集されたものです。支配層ではなく庶民によって書かれた古文書は、今日では、歴史の新たな側面を照らす貴重な学術資料となっています。

本展示では、文書群の概要や蒐集の経緯をパネルで紹介するとともに、いくつかの史料をピックアップして展示しました。

### 【成果】

本学の庶民史料は、奇兵隊に関連する史料について取り上げられることが多いのですが、今回の展示では文書群としての史料の由来や収集背景を切り口に、奇兵隊関連以外の史料も紹介する良い機会となりました。

アンケートや来場者の反応によると、本学の貴重資料に興味関心を持っていただけたことがうかがえました。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

今年度はコロナウイルスの影響もあり、昨年度からの課題であるアンケートの回収率を上げることと、広報の工夫について積極的な取り組みができなかったため、次年度も引き続き課題としたいと思います。



展示の様様



展示品の一部



## 山口大学 埋蔵文化財資料館

### 『白石遺跡とその周辺 ～白石から古墳をのぞむ～』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

電 話：083-933-5035

e-mail：yuam@yamaguchi-u.ac.jp

<http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryoukan.home/>

●開催期間：11月10日（日）～1月31日（金）

#### 【展示内容】

山口大学教育学部附属山口幼稚園・小学校・中学校の敷地は白石遺跡の中にあります。当館は、長年にわたって発掘調査を行っており、その成果から、当地における弥生時代から古墳時代の様相が明らかになりつつあります。展示では、それらの発掘調査成果を公開しました。また、同時期にあたる周辺の遺跡、主に古墳について取り上げ、その関係についてみていきました。

#### 【観覧者数】

152名

#### 【成果】

入館者は少なかったものの、学芸員資格課程の授業の課題となるなど、大学博物館としての一定の役割を果たしました。

観覧者から「大学の所有地のみでの貴重な資料を拝見できてうれしかった」などの声が寄せられました。

#### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

本年度は、新型コロナウイルスの影響により前期の展示室公開は中止となりました。10月に入り、当事業実施のため展示活動を再開しましたが、例年に比して入館者数は半減しました。

次年度も同様の状況が予想されますが、山口県大学 ML 連携事業として「おうちミュージアム」「おうちとしょかん」に参加するなど、この状況下でできる社会貢献を考えても良いのではないのでしょうか。



展示会場外観



展示の様様

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、本事業にもさまざまな影響が生じた。

まず参加館数に関しては、昨年まで13大学17館での開催となっていたところ、年度当初から、あるいは会期の開始時点までに、改修・移転作業等による辞退も含め5大学8館が参加を見合わせ、最終的に8大学9館での開催となった。

また、例年開催していたスタンプラリーの休止を決定したほか、アンケートの実施においても使い捨て鉛筆を用意するなど、事務局・参加館で意見を出し合いながら準備を進めることとなった。

事業参加した各館においても、多くの館が観覧者を学内関係者限定とし、また展示の準備と並行して来館者への検温や手指消毒、換気の実施といった感染症対応にも追われることとなった。

参加館からは「来場者に記名を義務付けたことが展示観覧の心理的なハードルとなった」「大々的に広報することがはばかられたので、例年よりも小規模な広報しかできなかった」などの声が寄せられ、コロナ禍中での開催の難しさを感じられた。

当事業は令和3年度においても開催予定であるが、こうした社会情勢において、この ML 連携事業をどのように実施すべきか、各参加館と知恵を出し合いながら臨んでいきたい。

山口県大学 ML 連携事業実行委員会事務局

# MUSEE

# Am



山口県大学ML (Museum・Library) 連携特別展  
令和2年度 共通展示テーマ『のぞむ』  
山口県大学ML連携事業Web  
<http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/>

【編集・発行】  
山口県大学ML連携事業  
実行委員会事務局  
〒753-8511 山口市吉田1677-1  
電話：083-933-5192  
e-mail: li322@yamaguchi-u.ac.jp

[主催] 山口県大学ML連携事業実行委員会事務局  
[共催] 大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会  
[後援] 山口県博物館協会 大学博物館等協議会  
山口県図書館協会